



カメラリポート  
 Camera Report  
 長門の話題  
 12/12

冬の風物詩も今回が最後  
**養殖ぶりの網引き**

12月12日、正月用に出荷する養殖ブリの網引きが、青海島にある県漁協山口ながと統括支店仙崎養殖場で始まりました。

この網引きは、5万平方メートルの養殖場で育てたブリを出荷に備えて小割りいけすに移す作業で、早朝から漁協職員約20人が網引きを開始しました。網をたぐると丸まると1メートルほどに育ったブリが顔を出し、水しぶきをあげて泳いでいました。  
 このブリの網引きは、養殖事業の赤字が続いたため今年度で廃止となり、最後の網引きとなります。



カメラリポート  
 Camera Report  
 長門の話題  
 12/3

ホークスの選手が指導  
**少年野球教室**

12月3日、長門青年会議所主催の野球教室がふれあいパーク三隅で行われ、市内外から約230人の野球少年が参加しました。

指導したのは、福岡ソフトバンクホークスの鳥越裕介内野手、水田章雄投手、山村路直投手、松本輝投手、森本学内野手、明石健志内野手の6人で、子どもたち一人ひとりに声をかけながら丁寧に教えていました。  
 指導を受けた児童は「さすがにプロ選手はいろいろなことを知っている。わかりやすく教えてもらった」と感想を話していました。



カメラリポート  
 Camera Report  
 長門の話題  
 12/15

千葉ロッテ入団の末永選手  
**母校日置中を訪問**

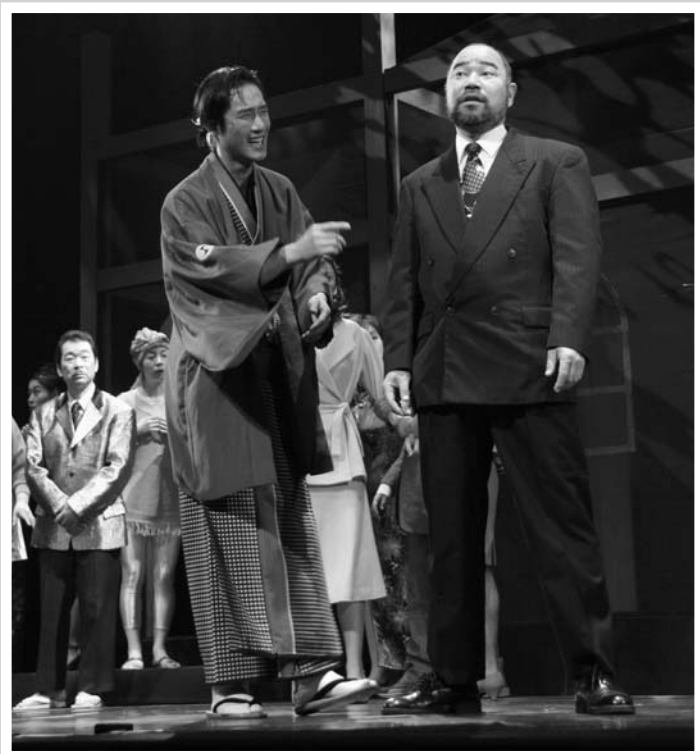
千葉ロッテマリーンズに入団した末永仁志選手が、12月15日、母校の日置中を訪れ、野球部にビッグチングマシンを寄贈しました。

末永選手は「日置中はわずか1年間の在学でしたが、いい先生や友人に恵まれ、思い出深い学校です。後輩の役に立てばうれしい」と述べ、目録を手渡しました。  
 同校を平成15年3月に卒業し、現在東京都高校3年生の末永選手。今夏、甲子園で活躍した宇部商の好永貴雄投手とは同中野球部の同級生で、「プロのマウンドで戦える日を楽しみにしています」と話していました。

カメラリポート  
 Camera Report  
 長門の話題  
 11/26・27

感動をありがとう  
**ながと近松実験劇場**

11月26、27日、ながと近松実験劇場最終公演「仏母摩耶山開帳」が、ルネッサながとで上演されました。



この「ながと近松実験劇場」は、江戸時代の劇作家・近松門左衛門の埋もれた名作を現代劇として甦らせようという試みで、ルネッサながとのメイン自主事業として開館以来継続して開催されてきたものです。  
 最終公演となった今作には、プロ役者11人と地元アマチュア22人が出演。5年間の集大成となる最後の舞台に、会場は感動の声とともに惜しめない拍手で包まれていました。終演後は記念式典も開催され、多くのファンに惜しまれつつもその幕を閉じました。

カメラリポート  
 Camera Report  
 長門の話題  
 12/4

勇気と感動の舞台  
**油谷こどもミュージカル**

12月4日、油谷こどもミュージカル「桃や姫物語」がラポールゆやで行われ、昼夜2回の公演に市内外から計1,050人が訪れました。



油谷こどもミュージカルは、平成14年に地域からの情報発信と子どもの創造性を伸ばすことを目的に発足。今回で4回目の公演となります。脚本・演出を下関市民ミュージカルの会代表・伊藤寿真さんが手がけ、市内の小学4年生から高校生までの31人が参加し、4月から稽古に励んできました。  
 公演では、子どもたちの熱演と息のあったダンスに会場からは大きな拍手が送られていました。次回第5作目の公演は、平成18年12月に開催される予定です。